



奮及共壽主義者ノ愚宣傳ヲ行スノ使命アリ有レド其ノ  
叔叔早ハ限定セシメ範圍ノ提供ニ入リテ揚言シ或ハ本  
震災ハ日本ニ於ケル革命ノ達成上ノ天ノ使命ナリ等不穩  
ク言テ弄セシメ事案アリトシテトテ國報セムルニ以テ其國報可ク及ハ同船  
員ノ上陸及提供貨物ノ受領ハ斷クあたヒテ赴キワラシム我輩  
今福ノ地域ノ治安ヲ損乱スル危険ナルヲ認メ斷乎トシテ叔  
叔子ノ受領ヲ拒絶シ且我輩福ノ地域外ニ退去スヘキコトヲ命令  
セリ

右依リテトシテ早ハ最重ナル監視ノ下ニ我ノ海軍ヲ津廟  
般邊迄ニ要スル兵あり捕給シ在リ得る手案ナリ此迄ニ退去スル  
旨ナリ、且吾命令ニ依リテ爲震災ニ赴キ我輩亦津ノ復  
察見所ニ依リテ搭載貨物ノ大部ハ古自庫車、古煉瓦等  
トシ其ノ他ノ貨物ハ之ヲ腐臭ニ供スル避ケルハ凡ソアリト云フ

0661

(写)

軍務局

炎電橋

海軍

模造半葉十三行罫紙

暗號發電大正十二年九月十五日午後七時三十分

(起草大正十二年九月十五日)

主 管 欧米局長

主 任 欧米局第一課長

件名 震災救援ノ為ニ奉航シタルコトニテ

= 関スル件

人名 山本外務大臣

受信 在可トロハウロフスク  
人名 島田領事

第九駆逐隊司令

(暗號)

左ノ電島田領事ニ傳ヘラレタシ外務大臣ヨリ

労農政府ヨリ我罹災民救援ノ為物資ノ供給ト共ニ

救援隊ヲ派遣シタキ旨渡邊總領事代理ニ申出

リタルニヨリ我方ニテハ物資ハ欣然之ヲ受納スヘキモ救

0662

援隊ニ就テハ言語不通等ノ為田滑ニテ業ヲ遂行シ難  
 キ虞レアルヲ以テ各國ノ分モ成ルヘク之ヲ謝絶スルコトト  
 セルニ依リ遺憾ナラシメテ之ヲ受ケ難キ旨令領事ニ回  
 答方訓電シタル處汽船コロニーニ號(旧コロニー)ハ  
 我方ニ回答ヲ俟タス九月八日浦潮出帆医師看護  
 婦等一ツリ六十九名及衛材料等ヲ搭載シ十二日  
 午後一時横浜ニ入港シタル處其ノ搭乗者ハ同號ニ到  
 レル我地方官憲ニ對シ積載物資ハ專ラ勞働者ノミニ  
 之ヲ配布スヘキモノナリ又今回ノ震災ハ革命達成上  
 ノ天ノ使命ナリ等ノ言辞ヲ弄シ宣傳ノ徵候顯著ナ  
 ルモノアリタルニ依リ戒嚴司令官ハ急遽從來ノ方針ヲ  
 変更シ物資モ之ヲ受納セス同號ヲ戒嚴地域ヨリ  
 立退カシムルコトトシ其旨ヲ傳ヘ先方希望ニ應ジ炭

宮井納

0663

海軍

模造半紙十三行異紙

水ハ之ヲ充分ニ供給セタル上ヨリ三時ハ十四日午  
前十一時横濱出帆浦潮ニ歸航セリ

(富井納)

0664

大正五年九月十六日午後九時  
長内 謹

軍務局長

第三戰隊司令官

0665

過般レリニシテ歸取調、際乗員、揚言スル  
所ニ依ル労働者釀金ノ集ルヲ待チ  
(多分四五日後ナラン)更ニ「トムスク」ヲ  
上海ニ寄港セシメ米其他ノ救護材料  
ヲ搭載シ横濱ニ来ル予定ノ由  
真偽確カナラサルモ外務次官ノ希望モア  
リ通報ス

軍務局

大正十二年九月十七

日 午後 時 分  
日 午前 時 分  
海軍省

海軍  
横濱牛車上三行露紙

受信者 軍務局長  
發信者 入湊要港部參謀長

電報譯

敷設艇葦崎十六日午前三時海峽之  
出動見張センモレーニンランキモノヲ認メス  
同船ハ天候次第ニ險悪トナリレヲ以テ  
正午函館ニ寄港警戒中 十七日

（富井納）

0666

12. 2. 10

111

1119114

情報科新聞係

露船のレビルスタクシヨ國之本日た記要領ヲ新聞記者ニ話シ  
置キタリ、但特ニ海軍省公表トモナル様注意ニ置ケリ。

(た記)

露船のレビルスタクシヨ(約ニテ百噸)態カレシト改名、震災救恤  
品救護班等搭載、昨朝浦塩ヨリ横濱ニ到着セリ、同船

救恤ヲ表看板、其室ニドサカサ給ヒテ、人心感亂、暴徒  
煽動ヲ目的トスルニシテ多敷、重宣傳文ヲ搭載セシト確信スレ

知レ夫デニ、奥平ゾト其物ヨクキツハリ、脚断ヲ喰ツタ結果

己ラケ得ス我海軍ヨリ浦塩帰還ニ必要タル石炭百五丁噸

浦水八十噸、補給ヲ度ケ、本日午前十時出港、其後ソツクリ

浦塩ハ引返エヌトナリシ由。

た新聞記者一談ニ、所成敵司令部、情報部一通告函。

た新聞記者一談ニ、所成敵司令部、情報部一通告函。

た新聞記者一談ニ、所成敵司令部、情報部一通告函。

た新聞記者一談ニ、所成敵司令部、情報部一通告函。

た新聞記者一談ニ、所成敵司令部、情報部一通告函。

た新聞記者一談ニ、所成敵司令部、情報部一通告函。



露國救済船米船ニ関スル件 一三九二ハ

露船「リーニシ」乗員ノ語ル所ニ依テ露國船員船トシテ  
ハ上海ニ於テ米麦其ノ他ノ救済物件ヲ搭載シ本邦ニ米船  
ノ計画アリトシテ三務隊司令官報告ニ依テ露船トシテ語ル所ノ  
際外務省有東郷書記官ノ語ル所ニ依テ本件ニ関シ本日  
閣議ニ於テ決定セル要旨左ノ如シ

一、露國ヨリ救済ノ申出アリタム時ニ左ノ條件ヲ附シ物品ヲ受領  
スルモ救済班員等ニ之ヲ受取リカスモノトス  
二、各種ノ宣傳ヲ行フカニト  
三、物品ノ分配ニ関シテハ制限ヲ附セズ日本政府ノ載量ニ依テ

ルコト

(富井納)

0568

二、露路國ハ月下船腹不足ナル以テ所立帝國領事ニ於テ  
受領之日本船腹ニテ輸送スル極少ナルト

註

右趣旨ニ依リ浦陸領事ニ訓令セラルル以テシテノリヤ

送ルトナト

5

九月十八日閣議ノ席上次官ヨリ大体ノ趣旨ヲ説明シ尚  
ホ段ノ今後先方ヨリ以下ヲ讀上ケ承認ヲ得タリ

露國汽船

露國汽船ローニン號來航ニ関シテハ當初在浦潮渡辺  
總領事代理ヨリ露國側カ同船ニ罹災者救恤品並傷病  
者救護隊ヲ搭載シ出來得ル限り速ニ本邦へ派遣方  
ヲ申出且先方ハ人道ノ見地ヨリ頻リ之ヲ主張セルニ付  
同總領事代理ハ日露關係ノ機微ナルニ顧ミ兎ニ角神戸  
へ向フヘキコトヲ告ケタル旨來電アリタルニ依リ外務省ハ内務  
省ト協議ノ結果九月十日同總領事代理宛電報ヲ以テ  
帝國政府ハ露國ノ厚意ヲ謝シ物資ノ供給ハ欣然之ヲ  
受納スヘキモ其受入ノ場所及配給ノ方法等ハ一切日本政  
府ニ一任セラレタキコト傷病者ノ收容救護ニ付テハ施設

九月十八日閣議ノ席上次官ヨリ

0670

既<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>緒<sup>ニ</sup>就<sup>キ</sup>大体懸念ナキ状態ニアルノミナラス救護  
隊等ヨリル援助ハ言語不通通譯不足ノ爲円滑ニ事  
務ヲ處理シ得サル虞アルヲ以テ米國其他ノ諸國ヨリノ同様  
申出<sup>ニ</sup>對<sup>シ</sup>テモ成ルヘク謝絶シ居ル現状ニ顧ミ帝國政府ニ  
於テ露國側ノ厚意アル申出ヲ謝絶スルノ已ムヲ得サル事  
情ヲ諒トセムコトヲ希望スル旨先方ニ回答方訓令セル處同  
船ハ右田答ヲ待タス九月八日浦潮ヲ出帆津輕海峡ヲ經テ  
同月十二日横濱ニ入港セルカ同船搭乗者ハ勞農側救濟  
ノ目的カ罹災勞働者ノミニ對スル慰問ナルコト並ニ本震災  
ハ革命達成ノ天ノ使命ナル旨言明スル等宣傳ヲ行公トス  
此ノナル旨第三戰隊司令官ヨリ報告アリ戒嚴司令官ハ  
十三日午後一時命令ヲ發シ救恤貨物ハ受納スル能ハス且同  
船ニ對シ戒嚴地域並帝國領海外ニ可成速ニ退去スヘキ

0671

旨ヲ命シ先方希望ニ應シ炭水ヲ補給シタル上同船ハ十四日  
浦潮ニ向ケ出發セリ

ローニシ跡ニ對スル右ノ措置ハ不取在浦潮渡辺總  
領事代理ニ電報スルト共ニ露國側ニ於テ誤解ヲ生  
スルカ如キコトナキ様篤ト説明ヲ加フ(キ旨)應ノ訓令  
ヲ共ニ置キタルカ其後露國隣接諸国並浦潮及「ト」占  
ハウロフスク方面ヨリノ報道ニ依リハ勞農官民ハ震災  
救援爲引續キ諸種ノ方法ニ依リ金品ノ蒐集ニ奴力  
カシ居ル模様ナルヲ以テ此際ニ露國側救援ニ對スル  
今後ノ措置振ヲ決定シ置クノ要アリ然ルニ救援隊ノ派  
遣ニ付テハ前記在浦潮總領事代理宛訓令中ニ措摺  
セト同様ノ理由ニ基キ之ヲ拒絶スルコト当然ナルモ救恤  
品ノ提供ヲモ一概ニ之カ受領ヲ拒ムハ日露關係ノ現

0672

状ニ顧ミ必シモ得策ナリト云フヲ得蓋シ現ニ滿潮ニ  
在留スル邦人約八百アリ震災救援問題ニ對スル我方ノ  
措置ニ付露國側ノ反感ヲ誘起スルトキハ政治的並經  
濟的ニ日露ノ關係ニ惡影響ヲ及ホスコト明カナリ殊ニ  
最近震災地方ニ於ケル朝鮮人迫害ノ報道捕潮方面  
ニ傳ヘシ同地鮮人等ハ既ニ何等カ企畫スル所アルヤノ  
風説アリ萬一之等鮮人カ赤派ト提携シテ在露邦人ニ迫  
害ヲ加フルカ如キコトアラハ事態頗ル重大ナル(キノミナラス  
一方本邦漁業者並林業者等ニ及ホス影響ハ豫メ之  
ヲ考慮セサル(カラス加ニ)房農側ハ裏面ハ兎モ角表面  
ニ於テハ人道的救済ヲ標榜シ併テ日露關係ノ改善ニ資セ  
ムトスルモノナルヲ以テ此ノ際先方ノ提供ヲ一概ニ拒絶スルハ却  
テ将来日露兩國間ノ事態ヲ惡化シ面白カラサル影響ヲ

0673

齋スノ虞ナレトモ從テ今後先方ヨリ更ニ金品ヲ提供  
ヲ申出ル場合先方カ之等金品ヲ罹災労働者ノニ  
配布シ又ハ自ラ之カ頒布スル等ノ条件ヲ附スルコトナク專  
ラ帝國政府ノ処分ニ任スルノ意志アルニ於テハ之ヲ受領スル  
コト然ルヘク只先方カ之等物品ノ輸送ニ充ツキ船舶ノ  
便宜ヲ欲セルニ願ヒ寧リ口在博潮帝國領事ニ於テ同地  
露國官憲ヨリ之ヲ受領シ本邦船舶例ハハ鳳山丸便等  
ニ依リ輸送ヲ行ハルコト適當ナリト認メラル若シ先方ニ  
於テ強テ露國船ヲ以テ送達セシコトヲ申出ワル場合ニハ  
更ニ同總領事ニテ請訓セシムルコトニ致度シ







大正十二年九月十八日北京發同日東京着

伊集院外務大臣宛

在支 芳澤公使發電報

北京駐在勞農政府代表者ヨリ義ニ同國政府外交委員ヨリ山本總理宛  
震災ニ對スル同情表示ノ電報ヲ發シタル旨及勞農政府主催ノ下ニ義  
捐金募集中ナル旨通知シ來リタルヲ以テ單ニ受領承認ヲ發シ置キタ  
ル處最近重ネテ同代表者ヨリ露國救濟委員會ニ於テ震災救助ノ爲ニ  
スル日本向輸出品ノ免稅西歐ヨリノ通過貨物ノ特別減稅伐採權及漁  
區ヲ日本人ニ特別條件ニテ許與スルコト木材ヲ延ヘ拂、原價ニテ無  
制限ニ日本ニ輸出スルコト、尙右救濟委員會ハ全國ニ亙リ義捐金ヲ  
募集シ黑龍銀行本支店ニ特別勘定ヲ設定スル旨ヲ通知シ右ニ關シ救  
濟上必要又ハ有益ナリト認メラルル事柄アラハ申出テラレタキ旨申

外 務 省

（日 號 川 紙）  
（原 倉 納）

0676

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

越タルヲ以テ不取敢謝意ヲ表シ置キタリ

〔邑號川紙〕  
〔坂倉納〕

外  
務  
省

0677

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

備前

備前



備前

第七〇七號

集院外務大臣

渡邊總領事代理

浦潮 庚辰九月十九日  
呈請者 左  
二十日 前記 四〇

往電第七〇六號 閣下

十九日縣柳園紙ハ日本政府ハ其人ノ力ニ依リ

出シ對スル援助ヲ密シク日本國政ノ對症<sup>症</sup>行動<sup>動</sup>

ハ疑ナシ如何ニ之ヲ解スルヤト題ニ上段ハ

無線ニテ日本外務省ノ指示ニ依リ十二日横濱

ニ入港シスル家岡港務官ハ直ニ來航水船ヲ候

翌後外國ヨリノ第一來航水船ニテ謝意ヲ表シ

0678

暫時ノ後憲兵ハ東航ノ目的貨物自數ヲ轉乘シ  
 爲ニ尔後屢訪問カレタリ内日本側ハ貨物ヲ海  
 軍ニ引渡方ヲ提議シ之ヲ談判終ラセタリ翌  
 日ニ至リ陸海軍憲(内務)ト大尉ヲ之來船ニ載  
 援ハ中交ナリト外部ヨリ日本勞働者ノ救  
 援ハ必要ナキト陸政府ノ決定ニ依リ此節ハ  
 日本ノ領海外ニ進出スルキヲ命セラルル者ヲ  
 中渡サレ十四日出帆序滿セリ日本外務省ノ最  
 初ノ電報ハ明カニ同船ヲ横濱ニ搭載シ本船ノ  
 派遣ニ関シテハ渡邊ト都合セ濟ナリシカ日本

0679

0680

急

供覽

軍務局 庚

供覽

三令新

三務局

歐一機密臨合第三八號

大正十二年九月十二日

外務省歐米局長 松平恒雄

海軍省

軍務局長 大角岑生 殿

大

大正十二年九月十一日附本邦震災ニ對スル露國救恤ニ關スル件竊送

第三班

藤田

已號用

12.9.13

12.9.18  
三令軍

洪

大正十二年九月十二日

外務省

0681

7/19

大正十二年九月十一日 本省着

山本外務大臣宛

在浦潮渡邊總領事代理

當地新聞ハ連日災害情報ヲ掲ケ論說ニ於テ盛シニ露國勞農民ハ日本  
 軍國乃至「ブルジョア」政策ノ過去ハ別トシテ日本勞働階級今次ノ  
 不幸ニ對シ極力援助セサル可カラスト說キ實行委員會其他ノ團體略  
 同様ノ決定檄文等ヲ公布シタルカ露働カ熱誠救済ニ當レルコトハ最  
 初震災ノ報アルヤ當地方勞働者カ自發的ニ一日分ノ給料並捐ヲ決定  
 シ八日舉行ノ露國飢民救濟國際慈善會ノ收入ノ半額ヲ日本ニ寄附  
 スヘキ決議ヲ爲シ其他各方面ヨリノ寄金計畫着々進行中莫斯科政府  
 カ今回ノ震災ニ對シ物價的援助ノ爲在極東船舶ニ必要品ヲ積込ミ日  
 本ニ急派方ヲ決定シタル事「カリーニン」カ右實行ヲ齊多ニ電報命

(已號用紙)

外務省

0682

セル事（不明）委員長ハ義捐金募集ヲ爲ス事政府カ必要ナル長時期  
 援助ヲ計議セルニ依リ日本國民カ將來露國民ヲ親友ト認ムルヲ期待  
 スル旨莫斯<sup>料</sup>當局ノ書報ヲ報シ來レル旨ヲ本官ニ吹聴シ當地新聞亦  
 何レモ右諸項ヲ莫<sup>料</sup>通信トシテ掲載シ最近ノ新聞ハ殆ント震災ニ  
 關スル記事論說ヲ以テ滿サレアルヤノ感アリ

（已號用紙）

外務省

0683



一般救援隊ノ事務ハ豫テ歐羅巴航ノ豫定ナリシ汽船ヲ突然翻ユルコトトナリ、物資ノ積込人員募集等僅々三四日間ニ諸事ヲ調ヘ遂ニ八日出帆ヲ見タル如ク其ノ組織的努力ハ前記宣傳振ト共ニ特ニ注意ニ値スルモノアリ、右「レトニシ」號ノ齋ス衛生給養材料等ノ價額ハ約五十万金留ト稱セラレ該隊ハ出發前當地鮮銀ニテ十万圓ヲ日本銀行發ニ兩替セルアリ（所謂宣傳費ト疑ハルルモ當局側ハ寄贈米三万封度ノ内八千封度ノミヲ携行シ殘部ハ日本ニテ買込ム旨ヲ語レルヲ以テ之レ眞實ナラハ米代其ノ他ヲ併セ十万圓位ハ要スヘレトモ考ヘラル）又今次積込ノ木材ノ圓乃至米麥粉等ノ中ニハ主義宣傳文ヲ無數ニ差込ミアリトノ情報アリタルニ依リ本官ハ益々念重ネテ「ハーウキシ」ニ對シ該隊一行カ元來規定ノ手續ヲ履マス我政府ト交渉ナク

(已號用紙)

外務省

0684

(已號用紙)

シテ本邦ニ赴クモノナルニ付先ツ此點ニ相當ノ覺悟アルヘキコト、  
且露側ノ好意ハ多トスヘキキ事露風習ヲ果ニヤル兩國殊ニ露側力  
日本ノ現狀ヲ手前勝手ニ誤解セル餘アリ且兩者ノ間ニ何分ノ行違ヲ  
生シ折角ノ好意カ反對ノ結果ヲ招來スルカ如キコトナキ様就中申越  
モナク此機ニ於テ主義宣傳ノ如キハ最許スヘカラサル事ナルヲ以テ  
充分一行ヲ戒メ且萬事ハ兵庫縣知事ノ指揮ニ從ヒ行動然ルヘキ旨傳  
ヘラレタキ旨ヲ述ヘ置キ且一行出發前本官ハ本船ニ其ノ幹部ヲ訪ヒ  
適宜挨拶ニ加ヘ略本前記「ハ」ニ對スルト同様ノコトヲ述ヘ置キタ

リ

外務省

0685

既報ノ通り今回ノ救護船ハ第一回ニシテ彼等ハ都合ニ依レハ先ツ罹  
災孤兒等以百名ヲ當地ニ收容尙必要ニ應シ他ノ船舶及給養物資ヲ續  
派スル計畫ノ由ニシテ其眞意カ果シテ今期ヲ利用シ直接的ニ主義宣  
傳ヲ爲サントスルモノナルヤハ疑問トスルモ彼等ノ救護來航其物カ  
既ユ一ノ宣傳ニシテ之カ我國現狀ニ及ホス影響如何ハ十分考慮ヲ要  
スヘキ問題ト存セラレタルニ依リ「レーニン」號ニ關シテモ一應伺  
出ノ上ニ致スヘク努力(之カ爲露側ニハ本官カ救護船ノ派遣ニ異議  
ヲ唱ヘタリトテ批難ノ聲高カラントシタルモ前照本官ノ本船訪問ニ  
依リ緩和サレタル模様ナリ)シタルモ既陳ノ事情ニテ已ムナク一應  
神戸マテノ回航ニ對シ消極的ニ應シタル次第ニ付右情狀御了察ノ上  
本船ハ十一日頃神戸ニ入港スヘキニ依リ本省ニ於テ可然御處置アリ

タシ將又本件ハ露側ノ眞意ハ別問題トスルモ折角先方カ同情ニ基キ  
 熱心ニ持チ掛ケ來レルコト故帝國領内ニ於テ實際不穩行動ニ出テサ  
 ル限り之ヲ無下ニ謝絶スルハ勿論彼等ノ行動中餘計ノ曲解ヨリ彼等  
 ヲ撤退セシムルカ如キコトアラハ國交上ハ勿論直接在露官民ノ立場  
 甚タ困難ニ陷ルヘシト考ヘラレ當地邦人中心アルモノハ本件ノ將來  
 ニ對シ痛ク憂慮セルニ付右報告旁電稟ス

如斯同然、初ノ由ニテハ、  
 法然、ハ、大ノ事ナリ

(已號用紙)

外務省

0687

其電

秘

寫

軍本部

調印

電大正十二年九月十四日

在浦潮波邊總領事代理

第四四一號

山本 大 區

藤田

(已號用紙)

レーニン號ハ津輕海峽ヲ經テ來航セルモノノ如ク十一日同號ヨリ入  
 港地等ニ付無線電信ニテ聞合アリタル處其後戒嚴司令部ニ於テ同船  
 ヲ續演ニ入港セシムルコトニ決定シタルニ依リ同日同船ニ對シ續演  
 ニ直航スル様當省ヨリ返電シ置キタル處同船ハ十二日午後一時續演  
 ニ入港セル旨十三日報道アリタルヲ以テ直ニ島田領事及郡副領事  
 ヲ同地ニ派遣セリ、然ルニ同號搭乗者ハ勞働制被擧ノ目的ガ勞働者  
 ノミニ對スル限同ナルコトヲ公言セルノミナラス本國與ハ革命達成  
 上更ノ與ベタル好機ナル旨聲明スル等革命ノ宣傳ヲ行ハムトスルモ

外務省

0688

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

ノナルコト明瞭ナル旨ノ報道傳リタルヲ以テ戒嚴司令官ハ同船員ノ  
 上陸及提供貨物ノ受領ハ漸ク安定ニ赴キツツアル戒嚴令施行區域内  
 活山ヲ擾亂スルノ危険アルモノト認メ即時退去セシムルコトニ決定  
 シ戒嚴施行地域外ニ退去ヲ命シタルカ島田等ハ右命令傳達ノ後着演  
 セルヲ以テ止ムヲ得ス其儘歸還セリ同船ハ炭水補給ノ便宜供與方ヲ  
 求メタルヲ以テ右ニ就テハ十分ノ便宜ヲ與ヘ同號ハ本月十四日午前  
 十時強演出帆ノ筈ナリシモ天候ノ關係上多少遲延スル見込ナリ  
 尙本件ノ機微ノ關係ヲ有スルコトハ當方ニ於テモ充分ニ諒得セル次  
 第ニシテ被殺隊ハ各國ノ分モ成ルヘク之ヲ拒絶スルニ決シ居タル關  
 係上斷絶スルノ外ナキモ物品ノ供與ハ欣然之ヲ受クル方針ナリシ處  
 先方ニ於テ前記ノ如キ旨明チ爲セルヤノ報道ハ震災後京濱地方ノ秩

(已號用紙)

序未タ回復セサル今日著シク警備當局者ノ神經ヲ刺戟シ取締上已ム  
 ヲ得ヌ同船ニ退去ヲ命スルコトニ急遽方針ヲ變更シ又救濟貨物ニ付  
 ナモ勞働者ノミニ對シ之ヲ頒布スルカ如キハ此際到底不可能ナルヲ  
 以テ之カ受領ヲ辭退スルコトニ決定セル次第ナルカ東京續濱地方ハ  
 目下戒嚴令實施中ニモ有之且交通通信狀態不完全ナル爲メ中央部  
 ト地方トノ連絡モ國滿ヲ期シ難ク或ハレニン號トノ間ニ多少意見  
 ノ疎通ヲ欠クカ如キ事情モアリ得ヘキニ付、貴官ハ右ノ事情御舎ノ  
 上先方ニ對シ篤ト説明ヲ加ヘラレ尙ホ貴地露國官憲ノミナラス歐羅  
 ニ於テモ政府並國民カ震災ニ對シ甚大ノ同情ヲ寄せ居レルコトハ隣  
 接各地ヨリ累次電報ニ接シ帝國政府並國民ノ衷心感謝ニ堪エサル旨  
 ヲ傳ヘラルルト共ニレニン號ニ對スル處置ニ關シ誤解ナキ様説示

外務省

0690

セラレタシ

外務省

（官）  
號川紙

0691



歐一機密臨合第六五號

大正十二年九月十四日

外務省歐米局長 松平 恒

海軍省軍務局長 大角 岑 生 殿

大正十二年九月十一日附第八二號在波蘭代理公使來電分長總圖ノ本  
邦震災ニ對スル救済ニ關スル件寫送付



(巨號川紙)

外務省

0692

「ワルソー」發 大正十二年九月十一日

在波蘭并田代理公使

山 本 外 務 大 臣

南露及「ベトログラード」地方ニ旅行ノ豫定ナリシ佐々木書記官ハ  
右旅行悉ク許可セラレス從テ最早ヤ莫斯科ニ滞在スルヲ無意味ナリ  
トシテ本月九日歸任セルカ同官ノ齎セル露國ノ本邦震災救済ニ關ス  
ル報道左ノ通り

九月四日初メテ新聞紙上ニ日本震災ノ記事現ハルルヤ露國官民ハ多  
大ノ同情ヲ表シ莫斯科農藥博覽會當日餘興ノ興行ヲ禁止シ又聯邦政  
府ニ於テハ四、五兩日ニ至リテ會議ヲ開キ救済方法ヲ詳シ其結果日  
本糧食民救済ノ爲食料品ヲ積載セル汽船ヲ遣送スヘキ旨「カ

リーニン」ヨリ極東「コミサール」宛電命セラレタリ又「イスベス  
 チャ」紙ハ五日ヨリ救恤義捐金ノ募集ヲ開始シタルカ七日迄ニ二十  
 六萬參千圓（此英貨換算百十磅餘）ニ達シ尙其額日ヲ趁フテ増加セ  
 シトスル傾向アリ目下露國ニ於テハ新聞紙ハ政府ノ意向ヲ受ケテ輿  
 論ヲ煽動シ以テ政府ハ民衆ヲ左右シ得ル状態ニアルカ故ニ今次ノ義  
 捐金ノ如キモ露國ノ人口多キ丈ケ相當ノ額ニ達スヘキ模様ナリ現ニ  
 佐々木書記官ノ莫斯科ニテ聞キ込ミタル處ニ依レハ博覽會職員一同  
 ハ一日分ノ給料ヲ義捐スルニ決シ同官ノ宿泊セシホテルノ職員及ボ  
 ーイモ亦一日分ノ給金ヲ義捐スヘキ命ヲ受ケタル由ナリ尙外交部極  
 東局長ノ内話セル處ニ依レハ日本派駐カ木造ナルニ儘ミ露國ハ極東  
 ヨリ木村ヲ遣繼地ニ輪送スルニ決シ一兩日中ニ「デクレット」ヲ發

（已號用紙）

外 務 省

0694

布スル答ナリト蒙國カ我震災ニ盡力セル所以ノモノハ單純ニ人道問  
 題而已ト解スルハ餘リニ善意ニ過クルモノニシテ一方ニ此機會ヲ握  
 ヘテ日露交渉ヲ有利ニ展開セントシ他方一兩年前迄儲蓄ノ爲他國ヨ  
 リ援助ヲ受ケタル蒙國カ今日ハ隣邦日本ヲ救助シ得ルニ至リタリト  
 ノ國內宣傳ノ意味モ含マレ居ルモノト考ヘラル畢竟義捐會ト呼稱ス  
 ルモ蒙國ノ社會組織カ極度ノ中央集權ナル結果幹部ノ意向ハ命令ト  
 シテ部下従業員ニ徹底スル丈ケノコトニシテ下級勞働者間ニハ往々  
 醸出ノ意義ヲ解セサルモノアリ從テ新聞紙ニ連載セラルル義捐者ノ  
 如キモ其多數ハ政府ノ欲スル所ニ妄從シタルモノト見ルヲ至當トス  
 ヘシ

(已號用紙)

歐一機密四第七七號

大正十二年九月十五日

外務省 歐米局長 松平恒

海軍省軍務局長 大角岑生 殿

大正十二年九月十四日 在浦潮總領事代理來電露側ノ救援運動ニ  
關スル件寫送付



白 號 用 紙

外 務 省

0696

寫

大正十二年九月十四日在浦潮渡邊總領事代理發

山本外務大臣宛電報

露國側救援運動其後ノ狀況大要左ノ如シ

勞農政府カ救援貨物ノ運賃ヲ免除シ國內各地ニ救援ノ意義ヲ宣傳セ  
ル結果ナルカ歐露ニ於テハ莫斯科市「ソウエイト」同取引所中央購  
買組合同赤十字本部銀行新聞諸勞働團體等夫々金品ヲ搬出シ「オデ  
ツサ」  
「キエフ」  
「バヨー」  
「チフリス」  
「ロストフ」  
「シンエフ  
ロポリ」等ノ重要都市亦何レモ金品ノ寄贈ヲ爲シ居ル模様ニテ極東  
ニ於テハ齊多革命委員會八十萬留及食料十五萬布度ヲ支出シ且管内  
一般ニ對シ贈金勸誘中ナリ又浦潮取引所ハ縣内各商業者カ二週間取  
引額ノ五分工業家カ一週間生産額ノ二分ヲ寄贈スヘキヲ決議シ漁業

(已號用紙)

外務省

0697

組合ハ「アンドリヤノフレ」司會下ニ漁獲年額ノ二分乃至五分ヲ尙右ノ外西南區關係者ノ二日分漁獲額ヲ寄附スヘク決議シ有志家ハ既報國際慈善會ノ外更ニ近ク同様ノ催シ及文藝團新聞及銀行等モ亦集會計畫ヲ爲シ居リ又當地露國個人及英米人等ニシテ金品ノ寄附申込ヲ爲ス者アリ邦人側ニテハ當館及居留民會發起ノ下ニ義金募集ニ著手セリ之ヲ要スルニ内外人ノ今回ノ遭難者ニ對スル同情深甚ナルヲ認メラル尤モ露側ノ前記諸國金力義ニ先發シタル救援隊費ニ繰入レラルヤ又別途ニ寄贈サルルヤ乃至果シテ新聞諸報ノ如ク實際歐露方面ニ於テモ熱誠ニ喚集サレツツアルヤ否ヤ明ナラサルモ兎ニ角同情ノ聲高ク宣傳サルルハ事實ナリ



伊集院

浦安 大正五年九月三日  
著者著

伊集院外務大臣 渡邊總領事代現

第七二號

貴電第七二號收  
ハレ、讀ミタル處、ハレ、守堵満足ノ體ニシテ  
重シ其筋ニ夫々照スベシヤ答ハ尙有  
念文書ヨリハ知ラズヤト希御玉ニ  
モ文書ヨリハ知ラズヤト希御玉ニ  
ルハ勢カヒハレ、不都合失策ヲ奉ルヤ  
ベカラズ之ハ先方ノ意セザル所ナルハシト

0699



體好し新りたる其の便に思ふに本  
 官に對しし歸事仲の出先者同行  
 違ヒニシヨ同歸の品贈品其他目下  
 引続々然心ニ鬼集仲ノ義捐金に由  
 對シヨハ日本政府ハ依給快受せらるルヲ  
 多クタルハ目下露例ノ不可解トせん處  
 ン氷解セルヨ吾ブ現ニ當地言論舟ニ  
 コレ歸ニ對スル日本例ノ然ルハ委實ニ  
 對シ疑惑ノ中ニ在リタルニ依  
 釋スルハ兩國ノお同多量ニ不堪  
 云云ト云リ居タリ依テ本官ハ皆訓  
 會趣旨ニ基キ適宜應酬シ高先者

0700

ヨリ何事申出アルニ於て之ノ付違スバヤ  
述ハヨリヨリおん

（三）

0701



明治三十二年九月廿五日  
本署者 廿二日 九、一五  
廿二日 九、一五

伊集院外務大臣 渡邊信賴奉代理

第七一二號

軍務局

首電牙四一一號の送ニ依テセラレタル炭水代  
金九百餘円ハ支拂ノ暇ナカリシ趣ニテ当港港  
務局長ヨリ本官ニ來リ傳達方々申上ル金  
額幾許ナリシヤ又之ヲ取次ヘキヤ係セ御圓宛  
シ請フ



海軍事務官末有 一三九三三

本件之圖シ外務省トシテ炭水代百五拾五圓計上ノ  
所々モアノト故所見承知ニカトシテナリシハノ軍需  
局ト限議ト上奉任費ノ故炭水代等ノ支出スルニテ外務省  
意見ニ同意トシテ御答

0702

軍務局



大正十一年九月

二十一日 午前八時

海軍省



海軍

海軍省

第一課

發信者

佐々木

受信者

軍務局長

電報譯

昨日渡邊領事外務省我電報アリシル地路  
 政府ヨリ日本政府マ宛ル救接拒絶ニ  
 関スル電報初々當地地路新聞論調ハ  
 確ニ本件ニ対スル地路國側軟化ヲ示シ  
 若シ今後地路國側救恤ハ送リ先ヲ日  
 本(プロレタリアト)ニ限ラント主張スル場  
 合アリ  
 トスルモ我ヨリ直向ニ飛申シ出シ地路國側  
 主張ヲ挫ケサセ得ル道アルカ如シ我官軍  
 カ日地路

(公非納)

0703

海軍

模造半葉十三行部紙

函國(パロレタリ)直接ト父涉シ許シ又リ其  
ノ取次ヲ爲スコトハ能ク限リ避ケルノ安全ヲ  
スヘシ 委細書目  
九月二十五日

(宮井納)

0704

供野

三

軍務機密 第一二六番電報

軍務局

第一

第一

藤田

海軍

模造中平十三行書紙

大正十二年九月廿日

軍務局長

在備後 襲来 少佐宛

九月七日午前十時五分發

特種 暗 號

露國兵勇の般般の港後、於此に輿論其他露領出典  
中、本邦人保護及救済備上必要なる事、項等随時電  
報アリ、度本電受領、其の旨、電報アリカレ

。本電暗号之法、打電方外務省、依頼ノコト

富井納

0705



第七一五號

伊集院外務大臣

渡辺總領事代理

往電第七一〇號「レ」號事件ニ関シ給  
 ト沈黙シ居タル當縣機關紙ハ二十日社説  
 ニ於テ大要日本今次ノ大震災ニ對スル露王  
 勞農民ノ兄弟的心情ニ出ワル援助ニ對シ  
 夫ハ日本吾民一般及政府モ深謝シ居ルニ政  
 府カ「レ」號ヲ横濱ニ招キ乍ラ矛盾セル  
 處置ニ出テタルハ不可解ニシテ此ノ行違ハ米

謝書  
 大正七年九月  
 廿二日  
 廿三日  
 廿四日

0706

解セラレサルハカラス、吾人ハ日本ノ一部ニ及  
農派有ルヲ知レルモ日本政府カ金俸トシテ  
横濱友室ノ為ニ免態度ヲ持セサルヲ信  
スルカ故ニ本件責任者ヲ處罰シ問題ヲ  
解決セントシテ期待ス、然モ吾人ハ罹災民  
ノ慘状ヲ熟知スルヲ以テ同情的救援ヲ後  
トスト同時ニ日本政府カ右處罰ト共ニ今  
後派遣スル我カ義捐救援船ヲ相當ニ  
待遇スルニ處置ヲ執ラントシテ希望ス云々  
ト論じ且本件ニ関シテロスタトニテハ宣傳的  
記事ヲ掲ケ居レリ

0707



海軍

横道半葉十三行罫紙

丁  
自到反先  
紙子名線

夏譯

十日初稿王田外務省先  
先二四日午後八時五分迄迄附

(3)

岡本外務省先

岡本外務省先

(宮井納)

0708

レ-二-7 行部

{ 8<sup>h</sup> 3 P.M. 浦橋 差 94 時石.  
12<sup>h</sup> 1 P.M. 橋橋 差 距離 940 哩.

平均 速力 10<sup>h</sup>.

十部 1 速力 4<sup>h</sup> 以上 十一日 午後 八時 迄

十七時 迄 速力 2<sup>h</sup> 以上 受信 位置.

大 吹 埼 沖

快 輕 梅 峽 7 ⑩ 迄 之 統 7 9<sup>h</sup> 大 月

十 日 午 上 島 心.

(南洋)

海 軍

模 造 中 葉 十 三 行 郵 紙

0709